

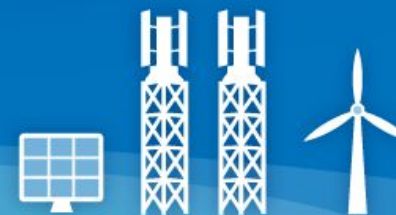
Waste Water Treatment



Comfortable household equipment



Natural Energy



2024年12月期 第1 四半期連結決算概要

2024年5月14日


# 2024年12月期 第1四半期連結決算概要

	2023年1Q	2024年1Q		2024年通期	
	実績	実績	前期比	予想	進捗
売上高	107.7億円	119.6億円	+11.1%	445.0億円	26.9%
営業利益	2.3億円	5.0億円	+114.9%	7.3億円	69.8%
経常利益	2.5億円	4.9億円	+97.3%	8.0億円	61.8%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1.0億円	2.5億円	+143.2%	4.0億円	63.5%

## 2024年1Qの状況

- 売上高
  - 昨年2Qより新規連結している2社の影響もあり増加
- 利益
  - 原材料・外注費高騰分の販売価格への転嫁は進捗
  - 人的資本への投資（定期昇給と合わせて2023/4に5%の上昇率にてベースアップ実施）
  - 海外事業への投資（現地スタッフの採用、海外向け浄化槽の研究開発）
- 建設業・運送業における2024年問題の影響度が不透明であることから、通期予想は据え置き

# 2024年12月期1Q セグメント別概要

 環境機器関連事業	2023年1Q	2024年1Q		2024年通期	
		実績	前期比	予想	進捗
売上高	58.1億円	62.5億円	+7.4%	215.2億円	29.1%
セグメント利益(営業利益)	6.2億円	8.4億円	+34.5%	16.7億円	50.7%
参考：経常利益	6.2億円	8.3億円	+33.1%		

## 2024年1Qの状況

- 国内売上：大型案件の進捗、価格転嫁への対応
- 海外売上：インド・スリランカにおける引き合いの増加によって売上増加
- ストックビジネス：排水処理施設メンテナンス事業及び地下水飲料化事業ともに堅調に推移、メンテナンス契約更改時には価格改訂も実施

## 参考情報

- 海外の状況【グループ決算への取り込みは3ヶ月遅れであり、2024年12月期1Qに取り込んでいる海外数値は2023年10月～2023年12月】
  - インド：現地の大手メーカーより工場管理責任者、品質管理責任者を採用。日本人スタッフとの連携の元で工場運営・品質管理を改善中
  - スリランカ：現地の最大手ディベロッパーとの取引開始。組立工場の稼働は計画通りに進捗
- 仕入価格等の上昇
  - 樹脂やガラス繊維などの仕入価格や外注費の値上げ継続中
  - 2024/4からは長距離運賃が大幅に値上がり

# 2024年12月期1Q セグメント別概要

住宅機器関連事業	2023年1Q	2024年1Q		2024年通期	
		実績	前期比	予想	進捗
売上高	44.6億円	49.2億円	+11.4%	196.1億円	25.1%
セグメント利益(営業利益)	0.4億円	0.4億円	△12.5%	3.8億円	11.2%
参考：経常利益	0.7億円	0.6億円	△12.6%		

## 2024年1Qの状況

- 売上(卸売) : 新設住宅着工戸数の減少によって、当社売上高も減少  
 (マンション等の賃貸住宅は堅調に推移しているが、注文住宅の新設着工戸数は1959年以來の低水準)
- 売上(工事) : 子会社の取得による空調設備工事の増加によって工事売上は大きく増加。また、設備投資需要の回復に伴って農業温室工事が好調
- セグメント利益 : 仕入価格高騰分の転嫁は進捗しているが、新設住宅着工戸数が減少している中で案件としては大きい利益の取りづらい賃貸住宅の比率が高まっていることから利益率減少

## 参考情報

- 木構造事業を2024年より本格化
  - 地域産材利活用方法の提案・構造設計・部材製造・販売・建て方支援などの幅広い業務を当社が請け負う
  - 2023年までは商社としての展開であったが、2024年からはメーカーとして展開を進めることで利益率の改善に貢献見込み
- 仕入価格等の上昇
  - 商品の仕入価格や外注費の値上げ継続中で、随時販売価格への転嫁は実施済み。
  - 今後は、販管費部分についても2024/4からの配送費値上げなどの転嫁についてが課題

# 2024年12月期1Q セグメント別概要

再生可能エネルギー 関連事業	2023年1Q	2024年1Q		2024年通期	
		実績	前期比	予想	進捗
売上高	3.4億円	6.4億円	+85.6%	28.1億円	22.8%
セグメント利益(営業利益)	△0.1億円	0.1億円	－%	2.2億円	7.0%
参考：経常利益	△0.2億円	0.0億円	－%		


## 2024年1Qの状況

- 太陽光：自社保有による売電(FIT活用またはPPAモデル)への注力に加え、施設販売案件によって売上は増加
- 小形風力：FITによる売電施設は現在24サイト稼働中
- BDF：軽油に当社製品を5%混合したB5軽油の契約数増加

## 参考情報

- 太陽光：買収した子会社を中心としたPPAモデルへの展開。
  - FIT施設：商業施設店舗屋根置きFIT施設129サイトをベースに全189サイト（前年同四半期より25件増加）が稼働中
  - PPA施設：大口の電力需要家向けに自社所有の施設からの売電を2023年3月より開始、現在は28サイト稼働中
- 小形風力：FITによる売電施設について、2025年までに70サイト稼働に向けて推進。現在は24サイト稼働中
- BDF：製造プラントのある愛媛だけでなく、需要の多い関東地方での事業展開を開始（製造プラントの建設完了し、6月より稼働）。他社と連携し、空港施設内で利用されるトーイングトラクターや路線バスへの給油の実証実験は継続中

# 2024年12月期1Q セグメント別概要

 その他の事業 (家庭用飲料水事業)	2023年1Q	2024年1Q		2024年通期	
		実績	前期比	予想	進捗
売上高	1.4億円	1.4億円	△2.3%	5.5億円	26.0%
セグメント利益(営業利益)	0.1億円	0.0億円	△81.4%	△0.0億円	—%
参考：経常利益	0.1億円	△0.0億円	—%		

## 2024年1Qの状況

- ボトル型ウォーターサーバーの契約数は減少、水道直結型ウォーターサーバーの契約数は増加
- 水道直結型ウォーターサーバーの契約数増加に対応するために専門の人員を先行投資していることから利益率は減少

## 参考情報

- 廃プラスチックの問題等によって、ボトル型ウォーターサーバーから水道直結型ウォーターサーバーへの移行を展開中。
- 主な営業活動については、いずれも愛媛・広島地区にて実施
- 水道直結型がサブスクモデルであることからボトル型ウォーターサーバーと比較すると利益率は低いものの、ストックビジネスとして企業基盤の強化に貢献